# おやこであそぼう

～　絵本と、わらべうたの時間　～

2018年 1月17日

ことしも
よろしくおねがいします

## ☆～　今月の絵本と紙芝居　～☆

いぬ（富山房） 作・絵：ジョン・バーニンガム
いぬがいっぱい（福音館書店）作・絵：グレース・スカール
こいぬがいっぱい わんわんわん（岩崎書店）
作：スーザン・メイヤーズ／絵：デヴィッド・ウォーカー
クーのおるすばん（鈴木出版） 作：西内ミナミ／絵：和歌山静子
ぼくたち こいぬ（福音館書店） 作：かけいしんじ／絵：おがわまさひこ
わんニャン（福音館書店）作・絵：きむらよしお
わんわん わんわん（理論社） 作・絵：高畠純
かじだ、しゅつどう（福音館書店）作・絵：山本忠敬
シリーズはたらくくるま（偕成社）作・絵：三浦太郎
～『とどくかな』『まかせとけ』『よいしょ』～
ちいさいしょうぼうじどうしゃ（福音館書店）作・絵：ロイス・レンスキー
はたらくのりものえほん（童心社） 作・絵：いしかわこうじ（しかけのある絵本）
しょうぼうじどうしゃじぷた（福音館書店）作：渡辺茂男／絵：山本忠敬
おはよう！しゅうしゅうしゃ（偕成社） 作：竹下文子／絵：鈴木まもる
紙芝居　おさるさん（童心社）作・絵：ひだのかな代
あったまろう（鈴木出版） 作・絵：もろはらじろう

## ☆～　今月のうた　～☆

♪もちっこやいて
もちっこやいて
とっくらきゃぁしてやいて
しょうゆをつけて
たべたら　うまかろう
（のりをまいて）
（きなこをつけて）

♪あぶくたった
あぶくたった　にえたった
にえたか　どうだか　たべてみよ
むしゃむしゃむしゃ
まだ　にえない
もう　にえた

☆～　暦と食べ物　～☆

2018年も始まり、１月は早くも半分以上が過ぎて行きました。

年末は年越しそば、お正月はお節にお雑煮を召し上がって、ご家族で佳き時間を過ごされたことと思います。７日には七草粥、１１日には鏡開きをしたお餅を、お雑煮やお汁粉にして召し上がったでしょうか？

日本の暦に合わせて様々な「食」があるように、カトリックの暦に合わせた食べ物も、多くあります。今月も、クリスマスに引き続き、美味しくて、ちょっと楽しいお話です。

カトリックの三大祝日のクリスマス（降誕祭）やイースター（復活祭）は、日本でもすっかりお馴染みになりましたが、もう一つは『公現祭（エピファニー）』と言います。

東方の三博士が星に導かれ、捧げ物を持って、ベツレヘムでお生まれになったイエスを拝みに来たというお話は、お聞きになったことがあると思います。異邦人である博士たちと会うことで、ユダヤ人だけでなく、世界の全ての人たちの前に、救い主が現れたという大切な意味があります。イエス誕生から１２日目の１月６日が、『公現祭』となっているのです。

この『公現祭』の時に食べられるお菓子が『ガレット・デ・ロア（王様のガレット）』です。パイ生地にアーモンドクリームをはさんで焼き上げただけのシンプルなお菓子ですが、ちょっとした《しかけ》があるのです。

ガレット・デ・ロアには、必ず王冠が付いていて、ケーキの中にはフェーブが入っています。フェーブというのはフランス語で「そら豆」のこと、元々は「そら豆」が入っていたそうです。今では、幼子イエス、マリア、天使といった公現祭に関わりのある人形から、全く関係のないかわいい動物や、お菓子、例えばティーカップのような生活用品などを模したものまで様々な小さな陶器が入っているのです。ガレットを切り分け、中にフェーブが入っていた人は、王様または王女様になることができ、王冠をかぶり、みんなから祝福されます。

こうして、誰にフェーブが当たるか、ドキドキ、ワクワクしながら家族や友人達と楽しいひと時を過ごすのです。

今月は、その「ガレット・デ・ロア」を初め、フランス料理をめぐる楽しい推理小説を、大人の方にご紹介します。小さなフレンチ・レストランで繰り広げられる、小さなかわいいミステリー７話が入っています。

タルト・タタンの夢（創元推理文庫）　作：近藤史恵

次回は　2018年 2月17日（水）

お問い合わせ
クリスト・ロア修道会
TEL０４２（４６５）８６２０